

やまなみ

2013
冬
Vol.8

謹賀新年



特集
記事

第1回駒ヶ根高原ふくしセミナー開催!!

連載
記事

事業所リレートーク

チャレンジアクション 移動販売車「ぬくもり号」始動!!
つれづれ福祉 笑顔の花咲く「ひまわり号」運動
トピックス/人事異動/プレゼント

写真提供：中央アルプス観光 中央アルプスから南アルプスのご来光を望む（写真中央は富士山）



縁起の良い巳年新年を迎えて

長野県社会福祉事業団理事長 辰野 恒雄

新年明けましておめでと
うございます。

年頭にあたり皆様のご多
幸を心から祈り申し上げます。

巳年は古くから幸運
の象徴とされ、安寧な暮ら
しを願ったものでした。東
日本大震災の復興もまな
らぬ今、この幸運にあやか
りたいと思う今年の春です。

昨年は当事業団の最大の
事業であった「駒ヶ根高原
ふくしセミナー」を開催し
ました。「学ぶ・交わる・
楽しむ」をテーマに地域で
の暮らし創りに関して、グ
ループホーム利用者の生活
実態等を発表いたしました。
第一回目セミナーで
したが、400人余の参加
を見て関心の高さ
を感じ取りました。

もう一つの大き
な事柄は、私ども
長野県社会福祉事
業団の長期構想を
策定したこととし
た。職員が時間を
かけて議論し、考
察して作り上げま
した。今後5年間
の方向性と予想さ
れる課題、そして

その解決のための手立てな
どをA4版約200ページ
にまとめ上げています。

関係する法律も「障害者
虐待防止法」に続いて新年
度には「障害者総合支援
法」が施行となるなど、障
害者福祉の領域ではまだな
お混乱が予想されます。法
改正に伴って障害者の相談
支援の仕組みが変わり、
次々に相談支援事業所の指
定を受け新しい取組みが始
まっています。

混乱の続きそうな日本で
すが、しっかり地に足をつ
けて方向を見失うことなく
努めてまいります。本年も
ご指導ご鞭撻の程、宜しく
お願い申し上げます。



12月18日、辰野町障害者就労支援センターの移動販売車「ぬくもり号」のオープニングセレモニーを開催しました。（詳細は「チャレンジ・アクション」(6P)に掲載）

車体には清流の里「辰野町」の名物「ホタル」をデザイン。注目度は非常に高く、公道を走るだけで広報の役割も果たしています。

第1回駒ヶ根高原ふくしセミナー開催!!

平成24年10月20日(土)～21日(日)



ロープウェイで20分。そこには別世界が広がっていました。



日本社会事業大学の佐藤久夫先生による講演。貴重なお話が聞けました。



駒天豆腐を使って創作料理。この味は是非みんなに食べて欲しい。



南原苑(飯田市)による太鼓演奏。オープニングを盛り上げてくれました。



開会式には地元県議や首長にもご参加いただきました。



駒ヶ根高原を散策しながら写真を撮影しました。



ゴールを目指してひた走る...

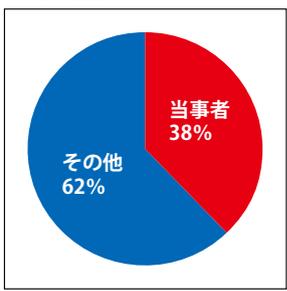


■ 第1回駒ヶ根高原ふくしセミナー参加者数

	当事者	その他	計
実人数	142	264	406
延べ人数	400	652	1,052

- ※1 「参加者数」は「宮田村民会館の利用実績報告」及び「参加申込実数」より算出
- ※2 「その他」は支援者(利用者引率)のほか、一般参加者を含む
- ※3 「当事者」数は参加申込実数より転記

■ 参加比率



平成24年10月20・21日、好天に恵まれ爽やかな秋晴れのもと宮田村民会館、駒ヶ根高原、西駒郷の三会場にて「第1回駒ヶ根高原ふくしセミナー」を開催しました。このセミナーは「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をコンセプトに、支援者も当事者も共に参加できる企画を用意しました。その様子を紹介します。

地元サークルによるダンス。地元の方と一緒に踊りました。



意見交換会の様子。いろんな方に声を掛け合い交流の輪を広げました。



手作りの太鼓作り。作った後は演奏、翌日には発表も行いました。



上伊那圏域の7施設が特産品を展示・販売！



マープリングという珍しい技法を使って不思議な模様を作っています。



交 わる



みんな揃って夕食会。疲れた後の一杯は格別♪



これが噂の「ざざ虫」

当事者参加型の企画として、当事者も支援者も共に交わり楽しむことができたのではないのでしょうか。

の輪が広がりました。

この会では地元駒ヶ根観光協会様、宮田村観光協会様からご提供いただいたご当地商品を景品としてくじ引き大会や、希望者のカラオケ大会が行われ、まさに当事者参加型のパーティーとなりました。また、「セミナー」の目的の一つに「長野県らしい暮らし」とは何かを共に考えることを掲げていたこともあり、地元名物である「ソースかつ丼」や「信州サーモン」、そして、この地域で古くから食されている「ざざ虫」や「鹿肉」などの料理も提供されました。特にざざ虫が運ばれてくると「うわっ、気持ち悪い」という声や悲鳴が聞こえ、怯えながら口にする者、断固として口にしない者など様々でしたが、話のきっかけとしてはいいネタとなり、話も盛り上がるともに交流の輪が広がりました。

1日目の終わりに行われた大夕食パーティー。当事者も支援者も共に交わり楽しむというコンセプトで行い、同じ食卓を囲み、お酒を酌み交わしました。



くじ引き大会にてご当地商品をゲット！

駒ヶ根高原を満喫！ 大夕食パーティー

各種大会・コンテスト結果発表

◆第2回 信州駒ヶ根天賦伝大会

【団体】

1位 伊那養護学校3年B組

25分30秒

2位 伊那養護学校2年

25分44秒

3位 伊那養護学校3年A・C組

27分15秒

【個人（1.5kmの部）】

1位 中平順也（チームにしこま）

6分38秒

2位 西川慎一（伊那養護学校3年B組）

6分39秒

3位 岡部和希（はばたけ！夢のつばさ）

7分7秒

【個人（750mの部）】

1位 竹腰健太（伊那養護学校3年A・C組）

2分28秒

2位 唐木幸隆（伊那養護学校3年B組）

2分38秒

3位 酒田良太（伊那養護学校2年）

2分42秒



◆創作料理コンテスト

最優秀賞

「ヘルシードライフルーツcake」

チームあらし♡（金澤梨花子、山崎安子）

（ほっとワークスGH・CHセンター）

優秀賞

「えりのスペシャルトウフむしケーキ」

チームえりちゃんズ♡（伊藤えり、有賀絹代）

（ほっとワークスGH・CHセンター）



◆駒ヶ根高原フォトコンテスト

最優秀賞 「クワガタムシ」

山岸尚明（かりがね共同生活

サポートセンター）

優秀賞 「あきしやしん」

宮下宜積（かりがね共同生活

サポートセンター）

観光協会賞 「はつゆき」

高見良一（ほっとワークスGH・CHセン

ター）



参加者からの提言

閉会式では当事者・支援者がステージに登壇し、地域生活に対する想いを提言いただきました。

私達はGHの地域定着を目指します。

私達はGHの生活の充実を目指します。

どんどん買い物に行ったり、いろんな行事に参加したいです。

街の中をどんどん歩き回って近所の人と仲良くなりたいたいです。

これからは料理を手伝います！

ケンカしません。皆と野菜作りをしたいです！

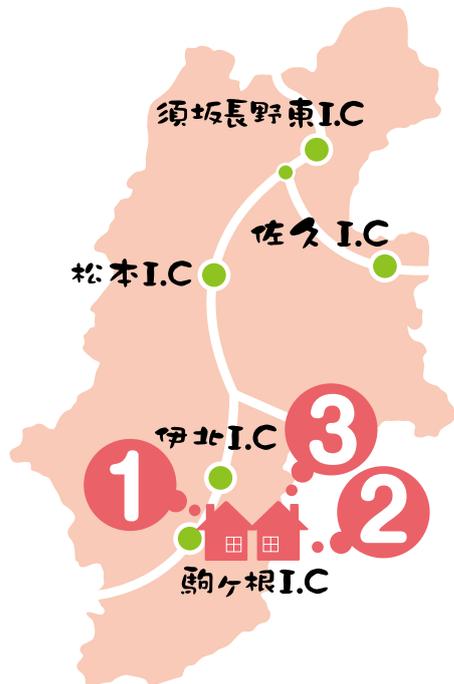


第2回 駒ヶ根高原ふくしセミナー開催に向けて

当事業団では、地域での『より豊かな暮らし創り』を支援するため、来年度以降も本セミナーを開催していきます。是非多くの皆様にご参加いただき、それぞれが生活する地域・風土に合ったライフスタイルの具現化をお手伝いできればと願っております。

第2回 駒ヶ根高原ふくしセミナー開催予告

開催日 平成25年7月12日（金）～13日（土）
場所 宮田村村民会館（宮田村）および西駒郷周辺（駒ヶ根市）
内容 駅伝、シンポジウム等、当事者も支援者も共に「学び」「交わり」「楽しめる」内容を企画中



① 障害者スポーツ支援センター サンスポーツ駒ヶ根

いよいよ10年目に入りました!

サンスポーツ駒ヶ根は、「サンアップル」の最初のサテライト施設として平成15年に開設し、今年で10周年を迎えます。長野県看護大学プール棟に事務所を構え、日常的な水中運動の支援や地域の施設、団体に出向きスポーツ・運動を行う「出張スポーツ教室」や、地域のスポーツ施設を会場に、卓球大会や研修会も開催しています。

10年という節目の年を迎え、ようやく地域に根が下ろせたと実感します。それは単に利用される方が増えたということだけではなく、当センターに多方面から「頼りにしています」「あてにしています」という声をいただいているからです。

このような声を励みに、また、縁の下の方持ちとしてセンター事業を支えてくれている地域のサポーターの皆さまや長野県看護大学の皆さまに感謝して、更なる10年を歩みたいと思います。

今後ともよろしく申し上げます。

(北沢)



ピックアップ! 西駒郷

平成23年度に新事業体系に移行した「西駒郷」の取り組みを、シリーズで紹介します。

② 駒ヶ根支援事業部ひまわり支援課 ～メリハリのある毎日を～ 利用者数 29人



ひまわり支援課には、男性22人、女性7人の計29人（平均年齢44歳）が生活しています。障害程度区分の平均が5.6と障害が重い利用者が多く、外出の機会が少なくなりがちですが、月1回以上は必ず職員とマンツーマンで外出し、楽しく過ごす時間を設けています。こうした外出体験を繰り返すことで、喫茶や食事などの場面で待つことも少しずつできるようになり、そういった時間も楽しめるようになりました。

また、土・日曜日の余暇活動として、繭玉作りなど季節を感じられる寮内行事を月1回行っています。

今後も楽しく健康で過ごせ、笑顔がたくさん見られるような支援をしていきたいと思えます。(今村)



③ 宮田支援事業部 わーく宮田 ～幅広い利用者に対応した軽作業～ 利用者数15人



わーく宮田「軽作業班」では、利用者の特性や希望に合わせ、下記4作業を提供しています。比較的簡易な作業が中心のため、初めて利用される方にも取り組みやすいようです。

1. プレス機を使った椅子の背板鋸打ち作業
2. 緩衝材作り（自然に帰るエコ商品）
3. 再生トナー専用の緩衝パック制作
4. 牛乳パックや広告回収

また、利用者が達成感や自信が持てるよう、作業工程を細分化するなどの工夫をしています。

6月に1名が地域生活移行を果たした事をきっかけに、皆刺激を受け「次は自分が頑張らねば」の気持ちから張り合いを持ち、このところ活気づいてきている毎日です。(矢島)





辰野町障害者就労支援センター 移動販売車「ぬくもり号」始動!!

移動販売車導入の経過

当センターは就労継続支援B型事業所としてうどん、ラーメン（生めん）の製造販売を手掛けて、早4年目を迎えています。出張対面販売を主に、地域の各種イベントに積極的に参加してきましたが、お客様から「え？ここで食べられないの!」という声を何度もお聞きする中で、いつかは自分達で作った麺をその場で食べていただき「あーおいしかった!」との声が聞ける日を持ち望んでおりました。

そしてこの度、日本財団の助成を受け、障害者支援事業所では県内でも珍しい移動販売車を導入することとなりました。



辰野町矢ヶ崎町長からのごあいさつ。

オープニングセレモニー開催

12月18日、ついに、その日がやってきました。冷たい風が吹くあいにくの天候でしたが、見て下さい！この行列!!（左下写真）会場の辰野町役場の駐車場には役場や図書館などを訪れた町民の皆様をはじめ町職員の皆様、約130人が集まり、作りたての温かいうどんを食べていただきました。そして、うどんを食べ終えて一言「あーおいしかった!」そうです！この言葉を待っていたのです！



移動販売車の中は大忙しです。



寒さが味を引き立てます。

今後の展望（野望?）

利用者の皆さんが心をこめて作った一杯のうどん（ラーメン）。この一杯を通じて、これからは地域とのつながりをもっと身近に感じることができるようです。作るのも、接客するのもまだまだ未熟です。でも毎日ドキドキしながらも一歩ずつプロに近づきたい、そんな想いです。

これからは、長野県一円をこの車、「ぬくもり号」で工房ぬくもりの麺をお届けいたします。「ぬくもりの麺を召上げ!」皆さん期待して待っていてください。（落合）



試食した皆様から「おいしい」とご好評いただきました。



ありがとう日本財団!

今回の辰野町障害者就労支援センターの移動販売車導入により、日本財団の助



成で購入した車は全部で12台になりました。車社会である長野県において、車はなくてはならないものです。

各事業所ともに移動や送迎、販売等で車がないと成り立たない状況の中、多くの助成をいただきました日本財団様にここに謹んで感謝の意を表します。



笑顔の花咲く「ひまわり号」運動



「ひまわり号」とは

皆さん「ひまわり号」運動を御存じですか？ 駅の環境や列車の構造から障害のある人たちが列車の旅を断念せざるを得なかった頃、「列車に乗ってみたい」「旅をしたい」という想いを 実現する為、障害者やその家族・ボランティアが中心となって1982年、史上初の障害者専用列車「ひまわり号」を走らせたことがこの運動の始まりです。そして、この取組みは大きな反響を呼び、全国各地で実行委員会が活動するようになりました。

今回は当事業団が運営する「松本ひよこ」利用者で「ひまわり号松本実行委員会」委員長の松永さんにお話を伺いました。



「ひまわり号松本実行委員会」の取組み

「ひまわり号」の運動は全国各地の実行委員会が、それぞれの地域やおかれた環境によって、それぞれに独自の取組みや運動をしています。

松本実行委員会は1984年に発足、その翌年には、総勢880名で旅に出たのを皮切りに現在も活動を続け、今年で29年目を迎えます。

なお、松本実行委員会では旅行の企画だけでなく、地域イベントにも積極的に参加しており、参加者同士の間にも交流も生まれています。是非皆さんもひまわり号の活動、旅に参加して思い出作りをしてみませんか！（金児）



ひまわり号松本実行委員会

委員長 **松永 健**
(松本ひよこ利用者)

現在、実行委員は20名程おり、現地の視察等を行い半年近くかけて旅行の企画を立てています。今年では東京方面にリフト付観光バス3台で行ってきました。

旅行には毎回100名近くの参加者が集まりますが、スタッフとして旅の準備から関わり、旅行を終え参加者の笑顔を見た時の満足感は格別です。体が不自由でも前向きに、感謝の気持ちを忘れずに、障がいのある人もない人も、大人も子どもも、皆さんが楽しめる活動や旅をこれからも企画していきたいと思っています。

【お問い合わせ先】

ひまわり号松本実行委員会事務局
(事務局長 横山浩一)
松本市神田1-24-16自性院内
電話：0263-26-6580

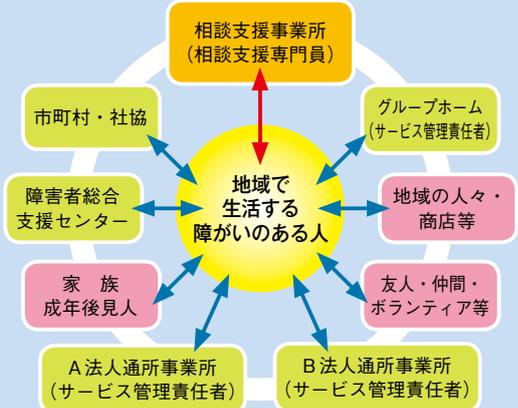


ネットワークによる連携

(特非) 長野県相談支援専門員協会
代表 **小林 彰**

地域で生活する障がいのある人たちは、地域の中の幾つもの場所で様々な機関や人々と関わりを持ちながら生活しています。それが「人間」として当たり前の暮らしです。障がいのある人たちにそのような自立的な暮らしを提供していくことが、私たち支援者の重要な仕事のひとつです。

利用者の多様なニーズには応えて地域との関係を深めていくためには、相談支援を中心としたネットワークによる連携が不可欠です。一法人内の事業所だけで完結する暮らしから、様々な事業所や機関、人々との関係を大切に、それらのネットワークによる連携を基に、その人らしい暮らしを保障していくことが今強く求められています。



※小林代表には特集記事「駒ヶ根高原ふくしセミナー」においてシンポジストを務めていただきました。

トピックス

水内荘創立50周年記念感謝祭

記念感謝祭

9月8日、「水内荘創立50周年記念感謝祭」が盛大に開催されました。このイベントは、その名の通り、「50年」という節目を迎えた水内荘が、今までお世話になった皆様に感謝の気持ちを込めて、楽しいひとときを過ごしていただくために企画したものです。

当日は、町内の企業や商店、OB職員、保護者の皆様をご招待し、水内荘の利用者職員を合わせると総勢93名が会場に集いました。参加者の皆さんは、久しぶりの再会とお互いの元気を喜び合いました。フィナーレは、参加者全員が心をひとつにして「故郷」の大合唱。これまでの50年は、皆様のご協力なくしては語れません。これからも、これからの50年も、皆様に支えられながら歩んでいきたいと思えます。(伊東)



絵画で最優秀賞

(長野県知事賞)を受賞!!

小諸市を会場に行われた、「第15回長野県障害者文化芸術祭」夢・アートフェスタこもろ」にて、400点以上の絵画・手芸・工芸・書道・写真作品の中から西駒郷利用者の小松真理子さんの絵画が、見事最優秀賞に輝きました。



作品名「乙女心」

障害者芸術作品特別展

主催 長野県、(社)長野県社会福祉事業団
展示品 第15回長野県障害者文化芸術祭「作品展」入賞の優秀賞以上の絵画、手工芸等、計20点の作品
展示期間・会場 平成25年2月16日(土)～3月3日(日) 辰野美術館(上伊那郡辰野町) / 3月8日(金)～3月24日(日) 長野県信濃美術館(長野市)



いずれも豊かな表現力にあふれた作品です。会場近くの方、芸術鑑賞の好きな方は、お見逃しなく！なお、詳細については当事業団HPからご確認ください。

小春日和 冬期限定メニュー登場

「かまじ」Cafe小春日和(長野市)に冬期限定メニューが登場しました。

なかでもオススメなのは、冬の定番ともいえる「鍋焼きうどん(750円)」。エビの天ぷらや卵、車麩がのった食べ応えのあるうどんです。他にも、「みそ煮込みうどん」や「釜揚げうどん」など、寒い冬にピッタリのメニューを用意してお待ちしております。
お問い合わせ先：026-217-7440



人事異動

事務所間異動等

(平成24年11月1日付)
長野圏域障害者総合支援センター歩塗里
看護師/阿藤広美(兼)

退職

(平成24年9月30日付)
伊那ゆいま〜る
支援員/塩澤大樹
(平成24年10月31日付)
ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター
支援員/後藤瑞穂
(兼)他職との兼務職員

プレゼント



「伊那ゆいま〜る」

就労継続支援B型事業

川上 彰 支援員からのメッセージ



◆ 木製プランター 53cm×19cm×18cm

お庭に自然にとけこむ木製プランターです。ガーデニングにぴったり！ひとつひとつ手作りで丁寧に仕上げてあります。直接草花を植えられ、水はけも◎。

カラーは、【白・茶・焼】の三色からお好みでお選びください。



「伊那ゆいま〜る」の木製プランターを抽選で5名の方にプレゼントいたします。事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号、⑤プランターの希望カラー(白・茶・焼)を記載のうえ、メールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せください。(3月末締切り)

なお、当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。(プレゼントの発送は4月頃を予定しています。)

年末に行われた衆院選では自民党の圧勝・政権奪還というカタチとなりました。しかし、投票率が半分を割る中で果たして何人が信念を持って票を投じたのでしょうか。選挙に行くことがまず一歩、誰に入れるか考えるのが次の一歩。「どーせ何も変わらないから」ではなく「自分が変えていくんだ」という意思を持つことが選挙のみならず仕事の上でも重要なのではないのでしょうか。自分自身考えを発信し、この一年をいい年に変えていければと思います。(東)

編集後記

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel : 026-228-0337 fax : 026-228-0310
URL : http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/